

## 住民協ひろば

発行日 平成30年6月2日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

## ・平成30年度総会・懇談会特集・

## 平成30年度総会・懇談会

4月21日（土）、13:30～16:30、久

木会館で久小校区住民協・30年度総会・懇談会が開催されました。

《30年度総会》概要は次の通りです。

1. 出席者 出席者総数：54名

ハイランド：4

地域からの出席者：38名

行政他からの出席者：16

地域別 山の根：14 久木：20

委任状提出者：14

## 2. 報告事項

## (1) 29年度活動報告

援を行いました。

発足1年目として、住民協の認知度の向上と、部会活動の基礎固めに重点を置いて活動。本部活動として役員会及び広報誌、月刊「住民協ひろば」、全部配布の「住民協ひろば・特別号」を通しての認知度の向上（広報）と部会活動の支

部会活動として、ふれあい部会の「健康寿命を延ばす活動」、子ども部会の「みんなの食堂」、拠点部会の久木会館の指定管理者への移行活動等が挙げられます。更にふれあい活動のコミュニティーサービス活動準備がすすんでいます。

## (2) 29年度収支決算報告 収入

科目	予算	実績	説明
市交付金	510,000	510,000	
その他収入	0	141,700	みんなの食堂収入他
合計	510,000	651,710	

## 支出

科目	予算	実績	説明
自主事業費	410,000	403,830	主として本部活動費
共通事業費	100,000	129,996	主として部会活動（みんなの食堂）費
小計	510,000	533,826	
次年度繰越金		117,884	交付金の繰越金は42,845 その他収入の繰越金は75,039 （その中で、みんなの食堂の繰越金は、27,715です。）
合計	510,000	651,710	

**3. 決議事項** 4 事項が決議されました。

**(1) 地域活動センター・久木会館の指定管理者を受託する件**

久木会館の指定管理者を久木連合町内会から久小校区住民自治協議会に移行する内容です。

移行に伴い、規約の一部変更、規約の第5条(事業)に⑤として「地域活動センター・久木会館の運営に関する事業」を追加することが決議されました。

**(2) 30年度活動計画**

具体的な事業として展開するレベルになります。

本部活動は部会活動を支援すると共に引き続いて広報活動、特にいろいろな活動組織の紹介「グループ紹介」を行い交流の一助とします。地域活動センター・久木会館の運営を円滑に進めます。

部会活動では、ふれあい部会では住民協を拠点としたコミュニテイサービス(有償の地域のお互いさまの生活支援活動)の検討を進め、年内の発足を目標とします。

子ども部会では、「みんなの食堂」を継続できる形で定着させます。「まちのこそだち久木」を住民協事業として更に発展させます。すでに発足した事業を核として新しい事業を考えます。

減災部会では、「互近助」の理念を広げる活動として、避難所訓練を積極的に支援します。

拠点部会では、会館祭を開催すると共に、更なる会館の活用を考えます。コミュニテイセンターへ移行できる準備を行います。

部会活動は、上記活動に限定されず、地域の要請に応じて適切な活動を実施して行きます。

**(3) 30年度収支予算**

交付金と自主財源(住民協が独自に確保する財

源)による収支予算を別とし、それぞれの収支が明確になるようにしました。

**① 交付金会計**

収入			支出		
前年度繰越金	42,845		本部費	281,845	運営費、広報等本部活動費
自主事業費	409,000		部会費	170,000	部会活動費 特別勘定A(みんなの食堂会計)に70,000 特別勘定B(コミュニテイサービス会計)に70,000を支出
合計	451,845			451,845	

**② 自主財源会計**

収入			支出		
前年度繰越金	47,324		予備費	297,324	
その他収入	250,000	パブリックサービス(株)の市民貢献資金より等			
合計	297,324		合計	297,324	

③ 特別勘定

みんなの食堂とコミュニティサービス事業の  
特別勘定A（みんなの食堂収支）

収支を明確にするために特別勘定としていま  
す。

収入			支出		
前年度繰越金	27,715	自主財源	食材・資材費	192,000	自主財源
交付金より	70,000	交付金	運営費	70,000	交付金、会場費・保 険代等
会費収入	192,000	自主財源	予備費	27,715	自主財源
合計	289,715			289,715	

特別勘定B（コミュニティサービス収支）

収入			支出		
交付金より	70,000		運営費	70,000	初期投資、保険等
サービス対価	10,000		サービス報酬	10,000	対価収入と同額
合計	80,000		合計	80,000	

④ まちのこそだち久木、及び地域活動セン

ター・久木会館の収支予算は省略します。

(4) 役員選任、一部役員の地位変更の件

新たに次の4名の方が選任されました。  
東浩司（久木）、石井達郎（山の根）、龍崎成人

（山の根）、中村恭良（ハイランド）の各氏。  
山崎徳次郎氏（ハイランド）が大森啓亘氏に代  
わって副会長に就任しました。

《懇談会》

総会后、例年通り懇談会が《小田鈴子様  
・ハイランド》司会のもとで開催されまし  
た。

4つの部会リーダーから、活動内容の説明・報  
告があり、それに基づき意見交換が行われま  
した。

ふれあい部会（報告者：田倉代理）

- ◆コミュニティサービス組織の設立について
- ①数回にわたり”コミュニティサービスとは”  
について共通理解を深めるため勉強会を開催。
- ②実施地区葉山堀之内地区の「たすけ愛隊」を  
訪問し勉強会実施。
- ③再度共通理解を深めるためコミュニティサ  
ービスの趣意書を作成中。

《意見交換》

- ◆地域包括支援センターのメンバーとしてふ  
れあい部会に参加しているが、毎回熱い思い  
がぶつかり合っていると感じている。
- ◆ファミリーサポートセンターの仕組みが参  
考にならないか。
- ◆コミュニティサービスの組織化は大変難し  
いことだと思うが、独自の是非実現してほし  
い。

コミュニティサービスとは、お助けできる事を助けるこ  
とができる人が、有償でお互いさまでお助けする。  
これを久木小学校区で組織化する。



## 子ども部会（報告者：東代表）

### ◆みんなの食堂

1月にプレオープン。毎月1回実施。毎回100名以上の参加者があり盛況。会費は大人300円、子供100円。

### ◆まちのこそだち久木

助け合いの未就園児一時預かり。（1歳半以上～未就園児）

地域のお母さんが地域の子供を預かる。（コミュニティサービスと呼んでもよい。）

## 減災部会（報告者：鈴木代行）

### ◆「互近助」を広める。

「互近助」とはお互いに近くに住む人たちが助け合うこと。互近所を形にあらわすために、

## 拠点部会（報告者：小林代表）

今年度会館祭を企画する。

会館の活用度が上がってきたがまだ不十分である。

指定管理者が住民協に移管され、コミセン移行への準備

### 《意見交換》

## 30年5月度役員会

5月8日（火）13:30～15:15、久木会館で20名（内役員12名）が参加して第1

### 1. 新入会者

杉原明美様（久木在住）、茨田幸子様（久木在住）、田中英一郎様（久木在住）から入会申し

### 2. 子ども緊急避難所に関する件

P T A連絡協議会が実施していた子ども緊急避難所事業を廃止したことを受けて、住民協が同様の事業を実施出来ないかという提案が12回役員会で山崎副会長からありました。

久小P T A及び子ども会関係者から説明があり、久小校区としては29年度でいったん終了とし、改めて再開するか否かの検討をした

### 3. コミュニティサービスに関する進捗状況の報告

田倉様からこれまで部会で討議をしてきた内

## 《意見交換》

◆調理メンバー10人が声を掛け合い、人と人とのつながりができ広がっている。

◆P T A、子ども会の役員のなり手がいないのが現状だが、「みんなの食堂」でつながりが深まれば変わっていくのではないか。

◆フードバンク神奈川（コープ系）の活用は。

◆世代間交流に期待する。

◆まちのこそだち久木の現状はサポーター手当てで消えている。料金設定を検討し収益を上げ、久小校区の子供に還元したい。

避難所訓練で在宅避難者対策を取り入れた。

「互近助」の力で在宅避難者を支援する。重要なことは情報の共有。そのためには小さなコミュニティの核を作り活性化すること。

◆コミセン化は、地域に根差すものであってほしい。

◆久木会館は、小坪・沼間のコミセンと違って小規模なので、独自の発想が必要だろう。

◆コミュニティバスがあったらよい。

◆小地域の集う場所として空き家対策を行政と進めることが必要ではないか。

3回役員会が開催されました。審議内容は次の通りです。

込みがあり、了承されました。尚杉原様、茨田様は久木会館の会計を担当されることになりました。

いとのことでした。住民協は関係者の意見を尊重しながら、継続して検討することとなりました。事務局見解として、同様な事業を行う際には、継続的なフォローができる仕組みを作ることが大切なことと考えています。

（注）本討議が行われた後、5月7日に発生した新潟市の少女轢死事故が、誘拐殺人事件として認識されました。

容の説明がありました。その後の討議で、事業が地域にとって必要なことは理解しているので、具体的な事業の内容や方法に関して議論

を進めるべきだとの意見がありました。

## 役員会からのお知らせ

### 1. 出張エコ広場

田中尚武様（久木在住、ゼロウエストの会）から、出張エコ広場に関して協力の要請がありました。

出張エコ広場とは、住民が不要になったもの

### 2. 久木会館と避難所の関係

大規模災害が発生し久木小学校他の施設に避難所は開設された際に、久木会館を避難所として一体的に運用していく方向で検討するよう、市・防災課長から要請がありました。

### 3. みんなの食堂からの報告

4月27日（金）、17:00～第4回みんなの食堂を開催、メニューはカレーピラフと春のサラダ他で、参加者120名（子ども74名、保護者37名、スタッフ9名（注））。

を提供し必要とする人に再活用してもらう物品提供の場で、逗子ゼロウエストの会（と逗子市）が主催し、久木会館を含めてコミュニティセンター他の場所で開催しています。

重要な提案として、市と改めて協議していくこととなります。

尚、現在は、風水害避難所に指定されており、活用されています。

収入¥23,700、食材支出¥33,226、資材支出¥10,929で、大幅のマイナスとなりました。（（注）スタッフ参加者で登録漏れがあり実数はかなり増加します。）

次回は5月25日（金）、17:00～。

## 部会報告

### ふれあい部会 報告者 龍村敦子

龍村が欠席した住民協総会および5月8日の役員会でふれあい部会の「仮称コミュニティサービス」進捗状況報告を経て、役員並びに会員の皆さんはこのサービス展開には理解されたようで、総論賛成とおもって良さそうです。さて、部会ですが、先月来宿題の「なぜ？（住民主体サービスをつくるのか）とは？（そもそも住民主体のサービスって）」を5月14日に再度確認しました。その基本的な部分を部会員はみな

理解しています。次にくるのがサービスの内容と担い手と利用者（と仮に呼んでおきます）の具体の部分に入るとまた右往左往になってきます。その右往左往は当然のことで介護保険制度が導入されたときも右往左往だったわけで、何回かの見直しの末こんな状態になっているのです。横道にそれました。次回から細かい具体内容を詰め始めます。もうひと踏ん張り！また活発に参加しましょう。

### 編集後記

久小校区住民協が発足して1年が過ぎました。この間の活動の形を振り返ってみると、1年とはいえ、今後の住民協の運営のあり姿が見えてくる気がします。

一つは、活動の主体として個人の存在の大きさです。所属する組織が住民協を支えながら、個人が活動を推進している姿が見えてきます。

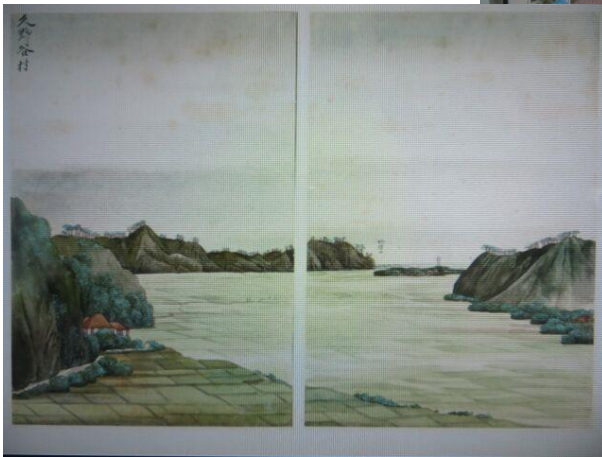
一つは、市の財政難が表面化して、交付金に影響が出ていることです。住民協の活動は、市の財政事情に影響されないのが本来の姿と考えています。交付金に過度に依存しない運営を心がけるのが、重要なことではないかと考えています。

事務局長 鈴木 為 之

# 温故知新 その十五 公余探勝図Ⅴ

故（ふる）きを温（たず）  
ねて新しきを知る

温故知新で数回に分けて紹介した公余探勝図の中で、谷文晁が久野谷村を描いた場所を、久木 5 丁目の丘の上だろうと推定しました。そこは久木の旧家、松岡家の裏山から岩殿寺につながる丘の上です。当主・松岡富春さんにお申し、松岡家の裏山に登り谷文晁のみた風景の現代版を見ることを思いつきました。



3月下旬の午後、竹林を喘ぎあえぎ登ると、尾根沿いにできたコンクリート擁壁の東端あたりに出ます。そこから谷文晁が見た久野谷村から新宿にかけての現代版の風景を見ることが出来ました。

（上の写真）

時を経てももちろん畑や田圃はなくなり、嘗てのそのあたりには全面に住宅が立ち並んでいます。遠くに見える桜山の山なみ、鏡摺の岬、披露山、山の根の

山端等々、形こそ多少の変化があるものの、存在しています。

松岡家のある場所から西側の谷戸の奥には岩殿寺があります。かつては岩殿寺から松岡家の裏まで続く尾根筋には道があったとのこと。

文晁は、松岡家或いは岩殿寺から尾根に登り、間の尾根筋のどこからか、「久野谷村」を描いたのではないのでしょうか。

逗子を訪れた定信以下の調査団は、沼間の海宝院と松岡家の二手に分かれて、文晁一行は松岡家に宿泊、翌日丘に登ったのではないかと、空想を巡らせます。



鎌倉からは巡礼道を経て、或いは名越切通しを経て山から岩殿寺に至り、この山路を通って松岡家に来ることもできたのでしょうか。登った丘の上には、明治のころ建てられたあずま屋が、昭和初期まであったそうです。

「逗子道の辺百史話」の中の「松岡家」（黒田康子）に、やぐらがありそこには和田義盛の代官、久野谷弥次郎の五輪塔があったとの記述があります。

やぐらは奥の深いものでした。（下の写真）

